

インターバンクの声（2014年7月24日）

5月上旬には1.40ドル近くまで上昇していたユーロだが、2月上旬の安値だった1.34ドル台後半は既に割り込み、昨年11月の安値圏1.33ドル前後に迫らんとする軟調な動きになっている。5月の高値から400ポイントほどの下落調整の後、半値近く回復していたのだが、ウクライナ問題をめぐるロシアへの経済制裁が強化され始めたことで、制裁する側のユーロ圏の成長にもマイナスの影響が想定されることが再度の値下がりの背景だ。ロシアのプーチン大統領は、マレーシア航空機が撃墜された直後は強気の姿勢を崩さなかったが、ここ数日間は無音の構えだ。ロシアにとって国家戦略上どうしても黒海へのルートの確保が重要なため、親ロシア派勢力が仮にマレーシア航空機を誤って撃墜したことが確認されても、容易に親ロシア派勢力の責任を認めるのは難しそうだ。今以上の経済制裁措置が決まれば、ロシアにとってもユーロ圏にとってもマイナスの影響が大きくなるのは必至だ。ユーロ圏の首脳陣やプーチン大統領、そしてオバマ米大統領が落とし所を見定める期間が暫く続きそうだ。もう少しユーロ売りで攻めても勝機はありそうだが、相対的に買い攻めし易かった豪ドルの上値も重くなっており、ここは英ポンド売りが一番安全なように見える。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。